

吉益東洞 医案④

京師烏街の売人、泉屋伊兵衛年二十有余。積年吐血を患う。大抵毎旬必ず一動す。丙午の秋に大吐す。吐已めば則ち氣息頓絶す。衆医を迎えてこれを救わしむ。皆以為らく為すべからざるなり。是に於て、家人環泣し、葬事を謀る。先生適至る。亦これを視せしむ。則ち未だ定死せざる者に似たり。因つて續を鼻間に著くに、猶蠕蠕として動ず。乃ち其の腹を按ずるに微動あり。蓋し氣いまだ尽きざる也。急に三黄瀉心湯を作り、これを飲ましむ。須臾にして腹中雷鳴し、下利すること数十行。即ち寤む。出入りすること二十日ばかり。全く故に復す。爾後十余歳復び発せず。